

記事内容

- ☆平和行動 in 広島
- ☆平和行動 in 長崎
- ☆メンタルヘルスマン月間/NPOインターンシップ報告会・修了式
- ☆カンパ活動/もうすぐ選挙/9月の行動予定表
- ☆あけぼのビル



in 広島

## 核兵器廃絶

# 2011 平和行動



in 長崎

連合は8月4日～9日の間、被爆から66年を迎えた広島・長崎で平和行動を連合・原水禁(原水爆禁止日本国民会議)・核禁会議(核兵器禁止平和建設国民会議)の3団体共催で実施しました。全国連合加盟の組合員など約1万1千人、連合埼玉からは27名が参加しました。参加者の感想を記載します。

日程

in 広島

参加者

- 1日目(8/4)** ■「核兵器廃絶2011平和ヒロシマ大会」  
 時間 16:50～18:30  
 会場 広島県立総合体育館
- 
- 2日目(8/5)** ■「平和シンポジウムin広島」(3団体主催)  
 時間 9:30～11:00  
 会場 JAビル  
 テーマ 「核兵器廃絶に向けて何をすべきか」  
 ■「ピースセミナー」  
 時間 11:30～  
 会場 放射線影響研究所  
 テーマ 「被爆の実相」  
 ■「ピースウォーク」  
 時間 14:40～  
 会場 慰霊碑めぐり(原爆ドーム・平和公園モニュメント)
- 
- 3日目(8/6)** ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催)  
 時間 8:00～  
 会場 広島市平和記念公園

- 神田 岳勇 (JAM埼玉/ファインシンター労働組合川越支部)  
 藁谷 雄悟 (情報労連/コミュニチュア関東支部)  
 佐藤 英明 (情報労連/コミュニチュア関東支部)  
 美村 憲昭 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合埼玉支部)  
 岩原 光利 (さいたま市地域協議会/曙ブレーキ工業労働組合岩槻支部)  
 平山 茂樹 (川口・戸田・蕨地域協議会/OKIソフトユニオン)  
 石田 朋久 (県央地域協議会/ヤマト運輸労働組合埼玉支部)  
 関田 栄一 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/太平洋セメント労働組合熊谷支部)  
 内田 豊 (本庄・児玉郡市地域協議会/三洋メディアテック労働組合)  
 富田 圭一 (秩父地域協議会/秩父石灰労働組合)  
 上杉 裕子 (連合埼玉女性委員会/沖電気工業労働組合蕨オフィス)  
 高木 英見 (連合埼玉執行委員/UIゼンセン同盟埼玉支部)  
 田尻 富子 (連合埼玉特別執行委員)



高木 英見

8月5日。私たちは平和行動の一環として、ピースウォークと称し原爆ドームや平和公園周辺を視察・見学していたことである。

痛いほどの強烈な日差しが照りつける中、多くの地元中学生たちが、核兵器廃絶を訴える独自の署名活動を行っていた。

汗を滴らせながら、真摯に訴えるその姿に感動を覚えるとともに、一瞬にして14万人もの命を奪い、今なお多くの被爆者が放射線障害に苦しむことを強いた原爆の恐ろしさ、悲惨さを未来永劫次世代にまで語り継いでいき、二度とこのような過ちを繰り返してはならないと気持ちを新たにしました。

神田 岳勇



平和シンポジウムの講演で述べられた、原爆死没者慰霊碑の碑文『安らかに眠ってください 過ちは繰返しませんから』が福島第一原発事故の放射能汚染と重なり、原爆ではありませんが原子力発電に頼ってきた日本国民として過ちを犯してしまったのかなと特に印象に残っています。原爆投下から66年ということで被爆された方々も高齢となっております。二度と核兵器が使われない世界のために、私達で核兵器・放射能の恐ろしさを後世に伝えていかねばと思いました。

佐藤 英明



広島、長崎での原爆投下による放射線の影響で数多くの人々が亡くなった。今回の平和行動では放射線影響研究所のオープンハウスを訪れることができ、放射線によって体にどのような異常が発生するか知ることができた。ピースウォークでは、初めて原爆ドームを見ることができ、その一帯にはがれきが散乱していた。まるで当時の恐怖がよみがえるようだった。今回体験した原爆の恐ろしさを後世に伝え、平和に貢献していきたい。



集合写真

岩原 光利



地球で最初に原爆が投下された広島は、熱線と爆風、そして恐るべき放射線により一瞬にして14万人余りの尊い命を奪われてしまいました。戦後66年が経過した今でも多くの被爆者が放射線障害に苦しんでいます。核兵器は、世界に約2万1千発も存在し、人類は核兵器の脅威にさらされ続けています。また、今年の3月11日東日本大震災においても福島第一原発の事故、そして放射性物質の漏えい発生と大きな問題となっています。これらの原爆・原発の問題を世界中で考え、より安全で安心な地球にしていかなければならないと強く心に思いました。

藁谷 雄悟



今回の平和行動に参加して、被爆者の生の声を聞き、また当時の様子などを資料館で目の当たりにし、原爆の恐ろしさ、被爆により苦しめられ続けている現状を痛感させられました。全世界では3万発と言われている核兵器を持ち続けています。66年も経った今、こんなにも苦しんでいる兵器を何故持ち続けるのか？原爆とは違うが、福島の放射能でこれだけ多くの人々が苦しんでいるのに核兵器だけは一気に脱核兵器とはならない。原爆の恐ろしさ・戦争の愚かさをもっと多くの人に知ってもらいたいと強く思いました。自分に子どもが3人いるが、いつかは現地へ行き、直接自分達の目で見て、聞いて原爆の恐ろしさ・戦争の愚かさをわかってもらいたいと強く思いました。



2011 平和ヒロシマ大会

美村 憲昭



あらためて、日本にとって8月6日という日の重みを感じた。66年前に起きたことを、これだけ多くの人達が真剣に取り組んでいる。それはかつてない出来事だからだと思う。原子爆弾を投下され、一瞬のうちに数知れない尊い命が失われた。また、多くの人達が放射能を浴びていまだ苦しんでいる。決して繰り返してはいけない出来事を我々が次世代に伝えていかなければならないと強く感じた。

平山 茂樹



会社の業務で何度か訪れたことのある広島。訪れるたびに平和公園まで足を伸ばしてみようと思いつつ、今回このような形ではじめての参加となりました。テレビの映像や雑誌の写真などでしか目にしなかった原爆ドームを直接眺め、実際に資料館で被爆した状況を目にし、絶対に忘れてはならない事象だということ、皆が狂ってしまう戦争というものを二度と繰り返してはいけないと改めて感じました。



～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

男女が社会のパートナーとしていっしょに「働こう」「休もう」「育てよう」。

政労連埼玉地連 議長 田村 充

## 石田 朋久



3日間に亘る平和広島大会。平和祈念式典での原爆死没者名簿にはこの一年間に新たに亡くなられた5,785人の名簿が追加・奉納された。66年経過した今でも苦しめられているという事は、決して過去の出来事ではないと痛感させられた。私達の平和な生活はこうした惨事の上に構築されており当たり前ではないという事を忘れてはなるまい。今回の原発問題で直接の被害は受けていないが、何をしていくべきかと考えさせられている。



連合埼玉参加者のみなさんで折り鶴を献納

## 関田 栄一



福島原発事故が発生し人類と核の関係が問いただされている中で、自分たちはどの様に進むべきなのか。原爆投下により14万人の尊い命が犠牲となった昭和20年8月15日から66年が経過して当時のまま、その姿が維持されている原爆ドームを目前にした時、先人達から問いかけられているような気がしました。平和祈念式典では66年前と同じ8時15分に黙祷が捧げられ、喧騒が一瞬にして静寂となる中、セミの鳴き声だけが響き渡り当時のことを強く偲ぶと共に、このような悲惨な出来事は二度と繰り返してはいけないという思いを強く持ちました。今回、このような機会をいただいたことで改めて平和とは何かを考えさせられました。



原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑



放射線影響研究所前にて

## 内田 豊



広島には過去数回訪れているが、何度訪れても原爆ドームや平和記念資料館のショッキングな映像には、改めて戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさを痛感させられる。

今回、私は放射線影響研究所を初めて訪れたが、低量放射線の影響や、次世代への影響などに関して、原爆投下後60年以上にわたる長い年月を掛けて、追跡調査研究が行われている事を知った。現在までのところ次世代への影響について有意差はないとの事であったが、結論が出るまでこれからも研究を行っていただきたい。

## 富田 圭一



「ピカ・ドン」この言葉を聞いたのは何年ぶりだろう。2011平和ヒロシマ大会で被爆者からの訴えで曾根薫氏から出た言葉である。以前は何度耳にした事か、目にした事か。そんな忘れた記憶を66年たった今、鮮明にその頃の様子を語られるのは幼少期にもかかわらず、いかに小さな心に大きな傷跡を残された事かがうかがえる。その訴えは恨みを誰にもぶつける事ができない悲しみの66年間で映し出されていた。

## 上杉 裕子



被爆された方々の体験談を聞き、またピースウォークで原爆投下後の状況について説明を聞くことで、原爆によりなんの罪もない多くの人々の命が奪われたのだということ、また生き残った方々の想像を絶する苦しみや絶望を感じ、わたしにとっては当たり前になってしまっている平和の大切さを再認識することができました。一人ひとりの平和への想いを強くしていくことが、世界恒久平和につながるのだと思います。みなさん、機会がありましたら是非ご参加ください。



## ～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

21世紀の最重要課題と位置づけられている男女共同参画社会の実現。私達は家族で、職場で、地域社会等で取り組むことで、一日も早く女性も男性も個性と能力が十分に発揮できる社会を迎えたいものです。

全水道埼玉県支部 執行委員長 茂木 陽二



in 長崎

日程

参加者

**1日目(8/7) ■「核兵器廃絶2011平和ナガサキ大会」**  
 時間 15:30~18:00  
 会場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ

**2日目(8/8) ■「ピースウォーク」**  
 時間 9:30~11:30  
 会場 慰霊碑めぐり(長崎平和公園・原爆落下中心地公園)  
**■「平和シンポジウムin長崎」(連合・原水禁・核禁会議3団体主催)**  
 時間 14:00~16:00  
 会場 原爆資料館大ホール  
 内容 ①テーマ 「被爆66年残された課題」  
 ②討論課題  
 「原爆症認定制度の見直しについて」  
 「原爆体験者問題について」

**3日目(8/9) ■「原爆犠牲者慰霊平和記念式典」(長崎市主催)**  
 時間 10:45~  
 会場 長崎市平和祈念公園

中島 稔 (JAM埼玉/サンウェーブ労働組合)  
 高橋 信浩 (JAM埼玉/サンウェーブ労働組合)  
 西舘 拓麻 (情報労連/コムシスウィングス労働組合)  
 土淵 聖和 (情報労連/コムシスウィングス労働組合)  
 及川 青児 (川越・西入間地域協議会/東光労働組合)  
 松本 修 (比企地域協議会/東松山市職員労働組合)  
 高橋 和則 (西部第四地域協議会/ソーシン労働組合)  
 藤田 要 (朝霞・東入間地域協議会/日本梱包運輸倉庫労働組合)  
 鈴木 勝宏 (東部地域協議会/NTT労働組合越谷分会)  
 松田 朋春 (北埼玉地域協議会/ショーワ労働組合埼玉支部)  
 梶原 健太 (連合埼玉青年委員会/東光労働組合)  
 横山 薫 (連合埼玉女性委員会/埼玉県市町村共済労働組合)  
 矢作 健児 (連合埼玉執行委員/埼玉交通運輸労働組合)  
 鶴谷 一仁 (連合埼玉副事務局長)

矢作 健児



昭和20年8月9日午前11時2分、長崎に一発の原子爆弾が投下され一瞬にして、7万4千人余りが死亡し、7万5千人余りが負傷したということを知りました。その当時の、長崎市の人口が、約24万人ということは、人口の60%弱の人が原子爆弾一発で、被害を受けたということです。このような悲惨な事が、二度と起きないように、唯一の被爆国として、平和な社会を作るため、継続した活動を行って行かなければと強く感じました。



集合写真



2011平和ナガサキ大会



投下されたプルトニウム原爆(ファットマン)

中島 稔



平和ボケをしている訳ではないが、埼玉から参加の私にとっては戦争・原爆と言った情報はこの時期に沢山放送されるテレビの中からだけで、悲惨な出来事だったのであろうとの感想だった。しかし、平和行動に参加をさせて頂いて当時の写真や資料、被爆者の生の声を聞き、あらためて事の重大さに気がかされました。今後はこの平和行動で聞いた、長崎からの“平和への願い”を沢山のの人に伝えていきたいと思う。

高橋 信浩



66年前、今回自分が訪れた長崎での原爆、それをひきおこしてしまった戦争、今後自分が生きていくなかで平和について深く、深く考えていかなければならない3日間の平和行動でした。1日目の2011平和ナガサキ大会では、小さい子供までもが世界にある核兵器をなくし、世界の恒久平和を実現しよう！とスローガンを掲げ核兵器廃絶を訴えているのが印象的でした。

2日目は、原爆資料館を見学させてもらい66年前の原爆が落とされた時間午前11時2分から止まってしまっている時計、放射能、爆風、熱戦によるすさまじい被害内容を間の当たりして、まだ世界各地で行われている核実験などの必要さが益々わからなくなりました。3日目の平和式典では、自分も含め、訪れたすべての人がなく核兵器のない世界>>長崎が最後の被爆地に>>世界平和を祈り、願いました。

西舘 拓麻



色々な行動への参加、そして話を聞いたり原爆資料館を訪れたりして、関心を持ち、知識を得られました。戦争を起こしたことや原爆を投下されたこと、国は悪くても被爆者には落ち度はありません。国は被爆者に対して真摯に謝罪・反省をした上で、アメリカにも原爆投下について責任を認めさせるべきだと思います。今も、核を所有している国々への核廃絶を訴え続けていってほしいと思いました。

### 土淵 聖和

今回、平和行動に参加して色々な意見や考えを聞く事ができ、たいへん興味深いお話ばかりで、自分の考えが改まりました。原爆資料館で見た展示物や写真、現地の人達のお話は、私が学校で学んだ事よりも、もっと詳しく長崎原子爆弾について学べたので良い経験になりました。

他の組合から参加した人からも私が知らない様なお話も聞いて勉強になりました。



### 及川 青児

長崎を訪れて皆さんの認識の深さに驚いた。8月9日、長崎を除いてはこの学校も夏休みで、登校日にはしていないだろう。被曝された方、家族だけでなく、長崎の皆さんは全員でこの問題に向き合っている。落下の中心が選ばれた理由、原爆の威力・人体への影響、被爆者・長崎への差別、補償をめぐる裁判。平和大会、ピースウォーク、長崎の方とのふれあいの中で教えていただきたい。知る・考えることを続けて組合活動に生かしたい。



### 松本 修

長崎市内へ向かうタクシーの運転手の方は、被爆2世(被爆者の子世代)でした。その方は、こう言いました。「私たち世代の義務は、被爆者(親世代)の実体験を引き継ぎ、更に次の世代(孫世代の3世)へ引き継ぐことです。更に仕事柄、観光で長崎に来た方々に原爆被爆地長崎について話すのです」と。田上長崎市長も言っていました。「全国・世界各地で原爆・戦争展などを開催して下さい。全ての人が関心を持って、忘れないでください。そうすることが平和維持につながるのです」と。

ノーモア ナガサキ! ノーモア ヒロシマ! ノーモア フクシマ!



原爆落下中心碑



原爆落下中心碑の前で説明を受ける

### 高橋 和則

被爆後66年たった今でも8月9日は学生たちは登校し、原爆の脅威、平和の教育を受けている事を初めて知りました。核実験こそ減少しているが所有国、所持数は非常に多い。全世界が考えなければならない事だと思います。

今の日本は平和だと思います。今回の平和行動で感じてきた事を忘れず後世に伝えていきたいと思いました。



### 鈴木 勝宏

戦後66年となる今年は改めて放射線の威力について再認識しなければならないと感じました。身近にある原子力発電所、たった一発で多くの人々が犠牲になった原爆は同じものということ。被爆体験の話や写真を、写真や文章とは違う体験者だからその想いが伝わってきました。被爆者の想いを受け継ぎ伝えていかなければならないと感じました。



### 藤田 要

教科書で知っている8月9日とは違い、今も尚、放射線障害で苦しんでおられる方々の現状や被爆体験者と言われる方々の存在を知りました。「戦争はいけない、核兵器は使ってはいけない。」と人々は思っているはず。それでも世界には2万発以上の核兵器があり、抑止力として使われ、日本国は核の傘に入っている現状があります。この現実を多くの人に伝えていくことが、平和行動に参加した者の責務だと感じました。



### 松田 朋春

長崎に着き、長崎県立体育館で行われた核兵器廃絶2011平和大会で私は核兵器の恐さに衝撃を受けました。原子爆弾から出された火の玉の表面温度は約5,000℃になり、全ての物を焼き尽くし、原爆の放射能は人体を刺し貫き、爆心地1キロ以内で被爆した方の大多数は亡くなってしまふ。

そんな恐ろしい核兵器が世界には未だ2万発以上存在しています。こんなに恐い核兵器を人類が保有する理由は何かと心から訴えます。



2011平和シンポジウムin長崎

### 梶原 健太

今年3月11日の東日本大震災で発生した福島原発事故を受けた今年の原爆平和祈念式典は、ある意味今年から新たなスタートという印象を受けました。長崎市長の挨拶、被爆者の訴え、親子で綴った構成詩、原爆資料館の写真や歴史から、二度と原爆は使われてはならない事を強く感じました。今回の平和行動に参加する事で、核兵器の廃絶に向けた取り組みの重要性を肌身に感じる事ができ、大変貴重な体験をさせて頂きました。常に意識するよう心がけたいと思います。



### 横山 薫

「66年経った現在でも戦争は終わっていない」と感じた長崎の平和行動でした。物理的な戦争は確かに66年前に終り、その後の復興により豊かで便利な生活をしている日本。

しかし、投下された原子爆弾の嘆きや苦しみが、心と身体に残り、今もなお続いているからだ。「被爆者」と「被爆体験者」の区別が、福祉や医療など個人の生活に影響を及ぼしていることも初めて知った。長崎市民の方との会話の中で、長崎市民にとって8月9日は特別な日であり、子どもの頃から原爆や原子力について考え、市民一人ひとりが、その悲惨さや不要性を語り伝える役目を担っているという言葉が印象に残った。



## 9月は「メンタルヘルスマ月間」各種取り組みを強化

いま、働く人が抱える問題は、倒産、失業のリスク、過酷なノルマや長時間労働、職場のいじめやパワーハラスメント、低賃金・不安定雇用による生活苦、多重債務など、深刻な心の悩みを引き起こしている。さらに、その悩みが心の健康に変調をもたらす「自殺」のリスクを高める要因にもなっている。働き方そのものを見直し、メンタルヘルス対策を充実させていくと同時に、私たち労働組合は活動の原点でもある「世話役活動」をいま一度見つめ直し、職場の人間関係の構築や労働環境の改善に取り組み、ともに働く仲間から、心の病に悩み、自殺に追い込まれてしまう人が出ないように組織として取り組まなければならない。そして、家庭においては、家族との心の絆が希薄になっていることに気づかないことが、家族の心の病に気づけない要因でもあることから、職場からの取り組みを強め、組合員自らが、いま一度家族・家庭のあり様を考えていくことが、13年連続して自殺者3万人を越す疲弊した社会から活力ある社会へと立て直す一策と考えています。昨年に引き続き日本産業カウンセラー協会北関東支部との共催で、「9月10日世界自殺予防デー」に合わせ9月6日(火)～10日(土)迄の5日間、「働く人の電話相談室」を開設し、さらに、9月7日(水)にはメンタルヘルス研修会(基礎編)を開催し、9月をメンタルヘルスマ月間として位置づけ、取り組みを強化していきます。

### 働く人の電話相談室

2011年9月6日(火)7日(水)8日(木)9日(金)10日(土)

10:00～22:00

フリーダイヤル  
**0120-583358**

(携帯電話からも、かけることができます)

## 2010年度勤労者のためのNPOインターンシップ(体験事業)報告会・修了式

東日本大震災の影響により延期していたネットワークSAITAMA21運動「NPOインターンシップ報告会・修了式」が、2団体と体験者5名の参加のもと、8月2日(火)あけぼのビルで開催された。

インターンシップ(体験事業)は、地域社会への積極的な参画、地域デビューをサポートする目的からさいたまNPOセンター協力のもと、今回は「親子でつくる子育ての会 わらしべの里」「綾瀬川を愛する会」「バリアフリーアートの会わーくほけっと」「冒険遊び場ネットワーク草加」の4団体に受入れの協力をしていただき実施した。

報告会では、体験された方から「障がいがある人たちの支援について、もっと具体的に何をしたいか、何ができるかを考える必要があるのではないか」「体験者の継続した参加を考慮するのであれば、居住地



近隣のNPOを選択できるよう、協力団体を増やした方がいいと思う」「参加者受け入れにあたって、せめて初日くらいは、スケジュールや当日の行動についての打ち合わせがほしかった」などの意見が出された。また、協力NPO団体からも「いろいろな方に、私たちの活動を理解していただくにも、とても有益な企画だと感じています。体験していただいた方々の次のステップに活かしていただきたいと思います」との意見が出るなど、次回開催に向け、さらに充実した体験事業になるよう意見交換を行った。その後、体験者全員に修了証を授与し終了した。



### ～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

男女の性別にかかわらず対等な立場として、社会的責任を分かち合いながら、個々の能力を十分に発揮できる男女平等参画社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

建設埼玉 中央執行委員長 山崎 光夫



## 東日本大震災義援金カンパ活動



7月28日(木)に浦和駅西口にて、東日本大震災義援金カンパ活動を行いました。執行部4名がカンパを呼び掛け、この日のカンパ活動では12,215円集まりました。

ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。皆様の心温まる義援金は、被災された方々の復興に向けて大切にしたいと感じました。これからもカンパ活動を実施していく予定です。ご協力をお願いいたします。

### 今後のカンパ活動の日程

○9月29日(木) 18:00～ 浦和駅

各地域協議会も各駅にて実施しています。

## = もうすぐ選挙 =

### 嵐山町議会 議員選挙

◆河井 勝久 (かわい かつひさ) 66才(社民党・現3・連合埼玉推薦3回目・組織内)

◆金丸 友章 (かねまる ともあき) 61才(民主党・現1・連合埼玉推薦初)

告示日:2011年9月27日(火) 投票日:2011年10月2日(日)

## 現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 木		第8回地方連合会事務局長会議(13:30～・総評会館)
2日 金	女性のためのSTEP UPセミナー(～9/3・国立女性教育会館)	比企地域協議会政策研修会(～3日・伊香保)
3日 土		
4日 日		
5日 月	第10回四役・執行委員会(あけぼのビル501)	中央労福協「第43次欧州労働者福祉視察」(～9/15・イギリス、スイス、イタリア)
6日 火	①働く人の電話相談室(～6/10) ②政策制度対県要請(16:20～・県庁)	
7日 水	メンタルヘルス研修会(あけぼのビル501)	
8日 木		第2回地域協議会議長・事務局長会議
9日 金		連合平和行動in根室(～9/12・根室)
10日 土		電機連合第51回定期大会(14:00～・ときわ会館)
11日 日		
12日 月		
13日 火	①ネット21運営委員会(10:00～・連合埼玉会議室) ②女性委員会第6回幹事会(18:00～・連合埼玉会議室)	①運輸労連第44回定期大会(13:30～・さいたま市産業文化センター) ②社会保険診療報酬支払基金幹事会(14:30～)
14日 水		埼玉県地方産業教育審議会(14:00～・ときわ会館)
15日 木		関東ブロック2011年度海外視察(～9/21・オーストラリア)
16日 金	第21回チャリティゴルフ大会(おむらさき)	
17日 土		
18日 日		
19日 月		
20日 火		
21日 水		①埼玉労福協社員総会(10:00～・ときわ会館) ②埼玉労福協「ゆとり創造フォーラム」(13:30～・ときわ会館) ③政策制度方針策定意見交換会(13:30～・総評会館) ④県央地域協議会幹事会(19:00～)
22日 木		関東ブロック2011政策フォーラム(13:30～16:30・横浜)
23日 金		
24日 土		
25日 日		
26日 月		①全労済埼玉新旧経営委員会(15:00～ 27日) ②埼交連第24回懇親チャリティゴルフ大会(ゴールド栃木プレジデントC.C)
27日 火	ネット21「NPO訪問ツアー」	嵐山町議選告示(10/2投票日)
28日 水	第4回労働政策委員会(10:00～・連合埼玉会議室)	
29日 木	東日本大震災義援金カンパ(18:00～19:00・浦和駅)	
30日 金		JAM北関東第13回定期大会(ひたちなか市ホテルクリスタルパレス)

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◆組織の認知度に反省

「MONTHLY」VOL232(6月1日号)で、東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所の事故により、県内に避難されてきた方たちへの支援活動について記述した。県内に設けられた避難所を訪問し、避難されている方たちと話しをする際、連合埼玉であることを告げると大半の方が連合を知っていた。

地方では地元マスメディアが連合の活動を取り上げる機会が多いとは言え、連合の認知度の高さに驚かされた。同時に連合埼玉の認知度を考えると反省すべき点が多々ある。

2011年度活動計画には具体的に取り組む運動課題(その4)「連合の認知度を高め、求心力の向上をめざす取り組み」と掲げているが、活動のポイントは広報宣伝活動の強化である。ホームページの充実や「MONTHLY」などの機関誌(紙)の発行、街頭宣伝活動時のチラシ等の配布が主な活動である。マスコミとの連携によりTVニュースや新聞記事に時折取り上げて貰っているが、昔のように春闘などの街頭宣伝活動だけでは取り上げて貰うことは難しい。

## ◆「共感」が得られる運動

認知度を高めるためには広報宣伝活動も重要ではあるが、それだけでは求心力の向上は望めない。組合員の理解はもとより、多くの県民に理解を得る運動を展開することが大切である。そのためには先ずは行動することであり、認知度は運動をすれば自然についてくるものである。そして、その行動は「共感」が得られる運動であることが大切であり、「共感」を得ることによって求心力も高まると言えよう。

みんなが思いをひとつにして、「これをやろう」というところに集まってこなければ、その運動はいずれ消滅する。ところが、自分たちが思いをひとつにして始めた運動であっても、時間が経過すると、その思いがどこかに行ってしまう、独りよがりになって自己満足に浸って行くこととなる。いずれは、「あの人たちは一緒にやりたくない」ということで、セパレートされることになってしまう。それをつなぐものが「共感」ではないか。

## ◆社会に影響を与えてきた4つの運動

戦後、世の中を動かしてきた社会運動として4つがあげられる。1つは農民運動である。農業協同組合法ができ、農協に収斂されることで農協パワーが社会に影響を与えてきた。2つには市民運動であり、現在はNPOや福祉関係団体などに移り変わっている。3つには60年安保を中心とした学生運動。そして4つには労働者の生活を底支えしてきた労働運動である。

今は力を失ってしまったそれぞれの運動であるが、労働運動はその影響力を発揮するための役割まで失ったわけではない。労働運動の社会的影響力が最も大きく、組織率が5割を超えていた時代から、組織率が2割を切り、労働組合員は働く人たちの中で少数派になってしまっている現在、広報宣伝活動の強化だけでは認知度を上げることは難しい。

5500万人いる雇用労働者、さらに労働者の3人に1人が非正規労働者であり、ワーキングプアと言われる年収200万円以下の労働者が1000万人を超える中で、私たちは組合員とその家族の幸せを求める運動から、働くすべての人たちを対象に運動を見直してきた。しかし、現在の運動は働くすべての人たちに「共感」を得られているのだろうか。

## ◆共感とは「働くこと」「生きること」

連合埼玉は第11回定期大会(2009年11月)において、「(改訂版)新中期運動ビジョン」を確認した。ビジョンで掲げためざす社会像は「『働くことの意義』『労働の尊厳』が尊重される社会、働き暮らす人々が主人公で、その「幸せ」が実感できる社会をめざす」である。

このことを踏まえれば、共感とは「働くこと」であり、すなわち「生きること」である。これからの運動において、生きることを中心としてすべての人たちに対して、支えるという役割を果たせるならば、連合運動が社会運動として過去のような求心力を持ち、誰からも認知される組織に生まれ変われるであろう。

労働運動の姿が見えない、求心力が弱い、連合は一体何をやっているのかと言われ続け、運動の見直しを行うために設置した連合評価委員会。その提言は神棚の上でホコリをかぶってはいないだろうか。改めてこの提言を見つめ直し、今こそ当時のスローガンである「組合が変わる、社会を変える」の実現をめざすときではないか。

2011.8.29